

2023 年 5 月 19 日

各 位

SBS 東芝ロジスティクス株式会社

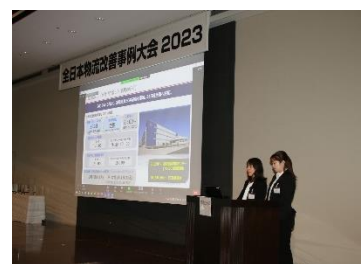
全日本物流改善事例大会 2023 において 2 拠点の改善事例を発表しました

SBS 東芝ロジスティクス株式会社（社長：金澤 寧、本社：東京都新宿区）は、5 月 16 日、17 日、（公社）日本ロジスティクスシステム協会（以下、JILS）が主催する「全日本物流改善事例大会 2023」（於：御茶ノ水ソラシティカンファレンスセンター（東京都千代田区））において、物流センターの現場改善などを対象として、当社関西支店並びに物流改革推進部 包装・設備技術グループの改善事例を発表したことをお知らせします。



今回で 37 回目となる本大会は、全国の物流現場改善事例の中から選考された 28 の優秀事例を 2 日間にわたり発表するもので、今年は会場およびオンラインで 283 名が参加しました。2018 年から 6 回連続の発表となる当社からは、前年 8 月に開催した社内改善発表会にて最優秀賞を受賞した 2 つの改善事例を発表しました。

関西支店は『家電量販 EC センターの成長に合わせた現場改善』と題し、顧客の EC 成長計画に合わせて対応力の強化が必要となった小物エリアに特化して、ピッキング・梱包・繁忙期の課題に対して改善に着手。商品のサイズ別に台車を作り、サイズに合った台車を指示できるシステムを開発、各 KPI を元にトライ&エラーを繰り返し、現場と一体となって目標生産性を達成した取組みを発表しました。



関西支店の発表

包装・設備技術グループは『DFL 思考 × 包装デザインアップデートによる顧客価値共創～工業用電子管におけるコスト低減、作業性向上、サステナビリティを追求～』と題し、従来の箱はコスト高・作業工数増・環境負荷増（プラ使用）が主な問題点であることに着目。DFL 思考にて顧客製品仕様を制約条件と捉えて協働し、包装デザインのオール段ボール化・コンパクト化に取り組んだ結果、包材費 65% 減、作業工数 30% 減、プラ 100% 減（脱プラ）、CO2 量 25% 減を実現しました。



包装・設備技術グループの発表

当社は今後も日々の改善活動を継続的に行い、生産性の向上を図るとともに最適なソリューション提供によるロジコスト低減を目指してまいります。

以 上



関西支店発表の松岡（中央）と水鳥（右）



包装・設備技術グループの戸田（右）

■ご参考

＜SBS 東芝ロジスティクス株式会社 概要＞（2022 年 12 月期）

本社住所：東京都新宿区西新宿 8-17-1 住友不動産新宿グランドタワー25 階

代 表 者：代表取締役社長 金澤 寧

設 立：1974 年 10 月 1 日

親 会 社：SBS ホールディングス株式会社（持株比率 66.6%）

資 本 金：21 億 28 百万円

売 上 高：732 億 6 百万円（単独）

従業員数：753 名

関連会社：TL ロジサービス(株)

事業内容：倉庫業、貨物利用運送事業、機械器具設置工事業、とび・土工工事業、通関業
航空運送代理店業、物流コンサルティング

U R L：<https://www.sbs-toshibalogistics.co.jp/>

■本件に関するお問い合わせ先

SBS 東芝ロジスティクス株式会社 総務部

TEL：03-6772-8201（代表）／URL：<https://www.webcoms.jp/sbstlog/contact/>

※ 当資料に掲載されている情報は、発表日現在の情報です。その後予告なしに変更されることがございますので、あらかじめご了承ください。